

## 奥多摩町観光産業課より

～獣害報告 LINE アプリについて～

奥多摩町では「獣害報告 LINE アプリ」を作成し、獣害による農作物の被害、目撃情報等の報告ができるシステムを令和6年4月から運用を開始しております。この「獣害報告 LINE アプリ」は報告機能のほか、過去30日までの報告内容が地図またはカレンダー上に表示され、どこの地区で農作物の被害や目撃情報があるかリアルタイムで確認ができます。

また、猟友会にも共有され、獣害対策（有害鳥獣捕獲・サル追い払い等）にも活用しています。

なお、奥多摩に登山やハイキングに来られる方もこの「獣害報告 LINE アプリ」を活用していただければ、クマの出没状況なども確認ができますので、是非ご活用願います。

使用にあたっては、右の「QRコード」をスマホ等のカメラ機能で読み取り、登録をお願いします。

詳細につきましては、奥多摩町ホームページ掲載の「使用方法マニュアル」をご覧ください。どうか、下記担当までお問い合わせをお願いします。

連絡先 奥多摩町 観光産業課 農林水産係  
電話0428（83）2295



獣に石垣が崩され散乱

## 観光協会事務局より

～ アンケート結果のお知らせ ～

この夏、奥多摩友の会会員様にはアンケートへのご協力をいただき誠にありがとうございました。

特に多くいただいたご意見です。

- ・夏の登山が無かったので増やしてほしい
- ・散策を増やしてほしい
- ・キャンセル料が高い
- ・参加費の値上り及び登山と散策の参加費を分けてはどうか
- ・イベント申込み方法は電話とメールが同数
- ・「来させえ奥多摩」の送付、予算が可能であれば紙で読みたい

皆さまのご希望に添うよう、前向きに検討を進めたいと考えています。

また、笠取山周辺のイベントについてもご意見がありました。当協会が登録している「地域限定」旅行業は隣接自治体までのイベントを催行するもので、青梅市・丹波山村・小菅村などへのイベントの催行は可能です。

しかし、残念ながら甲州市の笠取山や柳沢峠など隣接していない自治体へのイベントは認められていません。ご理解の程、お願いいたします。

多くのご意見を頂き、来年度のイベント計画に向けガイドとも情報共有をしています。

アンケートの中でガイドへのお褒めのお言葉もたくさん頂戴し、ガイド並びに事務局にとって大変励みになりました。

## 奥多摩友の会イベント

### No.18 奥多摩湖いこいの路 中止

このイベントは奥多摩湖いこいの路の工事の影響により中止としました。

奥多摩湖いこいの路は令和7年11月まで工事が行われる予定で、全区間を通り抜けることができません。

通行止が解除された際には、当協会としても臨時イベントを組むなど、奥多摩湖いこいの路を楽しむイベントを立てる予定です。

次号発行予定：2025年1月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会  
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210  
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789  
編集 名人・達人観光ガイドの会

来させえ奥多摩のバックナンバー  
をオンラインでご覧いただけます。



来させえ



奥多摩

《第75号》

令和6(2024)年

10月15日 発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



2022.11.17

## 鳩ノ巣溪谷

鳩ノ巣溪谷は JR 青梅線鳩ノ巣駅からほど近い、都心から日帰りで行けることができる紅葉の名所です。秋が深まる11月中旬になると、溪谷一帯は色鮮やかな紅葉で彩られ、カエデ類の美しいコントラストが目を楽しませます。溪谷を流れる多摩川の澄んだ水とのコラボレーションはまるで絵画のようで、散策や写真撮影には絶好のスポットです。写真は雲仙(うんせん)橋からの景色、このほかにも周辺には鳩ノ巣小橋と呼ばれる吊り橋もあり、複数の紅葉スポットに恵まれています。

## 季節のオススメのイベント

No. 19 11月26日(火)開催

### 紅葉の奥多摩むかし道

奥多摩むかし道を歩くイベントは年に二回、春と秋に実施しています。お馴染みのこのコースは、昔を偲びながら歩くのも楽しいですが、季節によって様相が変化するのも魅力の一つです。

春に可憐な花を咲かせた草たちはどうなっているでしょう。多くの草は早くから地下にもぐって栄養を蓄えています。果敢にも葉を広げてこれから寒い冬を耐えるものもいます。

夏には林を覆い尽くすほど勢力のあったツル性植物は、樹木をよじ登って頂上で実をつけています。ツルは枯れますが、タネをなるべく遠くへ飛ばして新天地で繁栄するようにと、風に願いを託します。

春から働き通しだった落葉樹の葉も、最後の大役が待っています。これからは貯金を崩す生活にはいるので、無駄な支出はしないように自ら散っていきます。

黄、赤、茶色に変化し、葉の中の栄養の回収が始まります。最後の最後まで働き続けたので、散るタイミングが悩ましいところです。燃えるような深紅の葉は、決断の時を迎えているのでしょうか。そして落ち葉になっても、やがて分解されて次世代の成長のために役立ちます。しかも自分の木だけではなく他の多くの植物の栄養になるように、分け隔てなく広く遠くまで散っていくのです。

栄養を回収しないで、緑色のままで葉が散ってしまう木があります。奥多摩むかし道で探してみましょ。こんな贅沢が出来るのは、菌と共生して裕福な暮らしをしているからです。人は見向きもしない地味な落ち葉ですが、栄養たっぷりなので土中生物に大人気です。自然界に無駄なものはありません。

冬に向かう植物たちの様子を見ながら、奥多摩むかし道を歩いてみませんか。

ガイド 市川 陽子

イロハカエデの巨樹



道祖神付近

No. 20 12月1日(日)開催

### 鹿倉山(1288m)奥多摩湖ベストビュー

ししくら

鹿倉山は山梨県の丹波山村と小菅村の境にある1288.2mの山です。まずは大寺山へ。奥多摩駅からバスで深山橋へ。橋を渡って陣屋裏手の登山口に取りつきます。いきなり尾根道の急登を登っていきます。いったん緩やかになりますが、また急登を登っていくと突然真っ白な仏舎利塔が眼に飛び込んできます。どうしてここにこんな大きなものがと不思議に思います。



大寺山の仏舎利塔

この塔は奥多摩の山々を登っているととても目につき、あれは何だろうと思えますね。間近で見るとその大きさに圧倒され、ますます不思議に思われます。仏舎利とはお釈迦様の遺骨を納めている塔とのこと。

オオヤマトヤマ

大寺山から鹿倉山へ向かって行き大山戸山付近から振り返ると、眼下に奥多摩湖が良く見えます。その後ろには、奥多摩三山の三頭山、さらには御前山が大きくそびえています。さらに進んで途中の大マトイ山を経由してなだらかな初冬の気持ち良い美しい森の山道を歩きます。途中の落葉した登山道からは、北側に雲取山から続く石尾根の鷹ノ巣山、七ツ石山方面がキレイに見えます。

大山戸山付近からの眺望



さらに歩いていくと鹿倉山の山頂に到着です。ここからの展望はありません。鹿倉山からは下りとなり、大丹波峠を経て広々とした伐採地を下り丹波山村の道路に出ます。そこからは道路を歩き、丹波山村の中心地のバス停に向かいます。

ガイド 藤田 典夫

## 奥多摩町 河川利用のルールとゴミの問題

毎年テレビでも話題になる奥多摩町のゴミ問題。氷川渓谷や鳩ノ巣渓谷などでBBQが行われ、河原や道端、駅のトイレなどにゴミが置き去りにされます。また、夜中まで大きな音を出す、有料のキャンプ場に侵入するなど、ゴミの他にも多くの問題として波及しています。



不法投棄されたゴミ

これらの問題が大きくなったのはコロナ禍になってから。氷川渓谷周辺は以前からBBQゴミの置き去りもありましたが、8月などシーズン中に数回程度でした。

しかしコロナ禍になり、政府も3密を避ける楽しみ方を推奨するようになった中で、キャンプやBBQなどを始める人が増えるようになりました。

令和2(2020)年は都道府県を跨る移動の自粛が東京都から要請され、都内でも自然を楽しむ奥多摩町の認知度が上がりました。

その影響もあり、翌年の令和3(2021)年から河原でキャンプをする人数が爆発的に増加し、ゴミの不法投棄を始めとした問題が多発するようになりました。

河原でキャンプをする人の大半(9割以上)は外国人が中心です。



賑わう氷川渓谷

キャンプのメッカとなってしまった氷川渓谷の多摩川・日原川の合流地点は秩父多摩甲斐国立公園の特別地域にも指定されています。火を使うことの規制は無いものの、テントの設営や直火などは禁止されています。



多くの違法テント

またゴミ問題に対応するため、当協会でも奥多摩町に協力する方たちで令和3(2021)年からゴミ袋を有料で販売し、販売したゴミ袋を預かる事業を行っています。

奥多摩町はゴミの持ち帰りが原則ですが、BBQで発生したゴミに量もあり

また臭いが出るため、電車での持ち帰りに限界があることから考えられた苦肉の策です。

またその翌年の令和4(2022)年からは、環境省や東京都環境局、近隣の民間事業者と共同で「マナーアップキャンペーン」と呼ばれる啓発活動を行っています。その効果もあってか、当初BBQは直火が当たり前に行われていましたが、最近はBBQコンロの持ち込みが増えました。今年は直火によるBBQやゴミを河原に放置することは減少傾向にあります。



マナーアップキャンペーンの様子

しかしながら、テントの設営禁止やゴミを家まで持ち帰ることまではマナーやルールが浸透していません。ゴミを家まで持ち帰るには事前の緊密な計画も必要であり、来年に向けてまだまだ課題が残っています。

矢作 佑允